

建設事業再評価について（意見具申）

平成20年10月

門真市建設事業再評価委員会

平成20年10月23日

門真市長 園部 一成 様

門真市建設事業再評価委員会
委員長 植村 興

1 はじめに

門真市建設事業再評価委員会（以下、本委員会）の審議については、市当局から事業の内容及びその効果についての説明をもとに、各委員の専門的見地から審議し、委員会の意見を総合的見地から取りまとめを行った。

市当局においては、本委員会の意見を踏まえ、今後の事業実施にあたり対応されたく望むものである。

2 審議の対象とした事業と評価基準

今回の審議対象事業は、国庫補助を受ける建設事業で、平成10年度に再評価を実施した後、10年を経過した時点で継続中の「門真市寝屋川北部流域関連公共下水道事業」である。

再々評価にあたっては、次の視点から事業継続の必要性等を検証した。

- (1) 事業の進捗状況
- (2) 事業を巡る社会経済情勢の変化
- (3) 事業効果の定量的分析（費用便益の分析）
- (4) 自然環境への影響

3 審議結果

本委員会で再々評価として審議をした結果、以下の理由により「事業継続」が妥当であるとの結論に至った。

事業の進捗については、平成19年度末時点の下水道普及率が77.4%であり社会資本整備重点計画の目標値である77.9%に僅かに達していないものの、前回の評価時点から約10ポイント増加しており、合流式の工法を採用している中であって、事業が順調に進捗しているものと判断した。

また、社会経済情勢の変化にあっては大きなものは見られないが、市の危機的な財政状況を鑑み、今後とも事業継続にあたってはコスト縮減に鋭意努めること。

事業効果の定量的分析については、便益と費用の比率が8.8と良好な数値を示し、事業効果があることを確認した。

自然環境への影響については、放流先である古川のBODが前回の評価時点から約5mg/l減少しており、下水道事業の推進によって水質が改善されていることを確認した。

最後に今後の下水道事業の継続にあたっては、河川事業との連携を図るなど、門真らしい水路景観の保全と水環境の改善を望むものである。

また、急激な豪雨などにより、冠水が懸念される地域に対し効果的な事業の実施を望むものである。

門真市建設事業再評価委員会

委員長 植村 興

副委員長 安田 孝

委員 岩田 三千子

委員 西村 一郎